

観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

「甲斐国は、昔より、貧しい山国であった」

この意見に対する反論を、「山に生きる」の展示を根拠として、以下に記しなさい。

展示資料のメモ

展示資料のメモ

歴史学者の故網野善彦氏（御坂町出身）は、甲斐は「孤立した山国」ではなく、「開かれた国」であったと述べています。（『甲斐の歴史をよみ直す』）

また、山梨県立博物館の平川南館長は、「甲斐」という言葉は「交ひ」という言葉からきており、交流の国と解釈すべきと主張しています。



「甲斐国は、昔より、貧しい山国であった」に対する反論

観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

「甲斐国は、昔より、貧しい山国であった」

この意見に対する反論を、「山に生きる」の展示を根拠として、以下に記しなさい。

展示資料のメモ

江戸時代の市川大門では幕府に御用紙を納めてきた。幕府に納めていたなんて、すごいと思う。

山梨の金山は16世紀後半の戦国時代に開発され、武田氏の繁栄を支えた。 など。

展示資料のメモ

山々に囲まれている甲斐の国にとって、山の木々は大きな財産であった。たとえば、奈良子村（大月市）から江戸まで6500本の材木を運んだ場合の経済効果は金3000両（約1億8千万～3億円）以上と見積もられていた。 など。

歴史学者の故網野善彦氏（御坂町出身）は、甲斐は「孤立した山国」ではなく、「開かれた国」であったと述べています。（『甲斐の歴史をよみ直す』）

また、山梨県立博物館の平川南館長は、「甲斐」という言葉は「交ひ」という言葉からきており、交流の国と解釈すべきと主張しています。



「甲斐国は、昔より、貧しい山国であった」に対する反論

山の中でも金山採掘，林業，紙漉きなど，いろいろな生業を営む人々がいて，豊かな山の資源が人々の生活を支えていた。 など。

観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

武田家朱印状

「武田家朱印状」(1560(永禄3)年)の文を書き写し、その意味を自分なりに解釈して以下に記しましょう。

「学びの引き出し」を開けてみましょう



本文	意味

なぜ、武田家は、このような文書を出したのか、その理由を考えてみましょう。

金山については、身延町にある「甲斐黄金村・湯之奥金山博物館」に行くと、さらに詳しいことがわかります。



観覧日：かんらんび 年 月 日 学校 年 氏名：

武田家朱印状

「武田家朱印状」(1560(永禄3)年)の文を書き写し、その意味を自分なりに解釈して以下に記しましょう。

「学びの引き出し」を開けてみましょう



本文	意味
<p>小田原問屋之事， 自今以後可相勤， 畢意対道者并 商人，不可企非 義者也，仍如件， 追而，若有申旨者， 重而聞届可被下知者也， 永禄三 庚申 卯月十八日</p> <p>田辺清衛門尉</p> <p>『山梨県史 資料編5 中世2下 県外文書』 563 ページ参照</p>	<p>1560年，武田家が黒川金山の金山衆である田辺清衛門尉に，小田原(甲州市)で問屋を勤めることを許可し，道者や商人に迷惑をかけてはならないよう命じた古文書。 など。</p>

なぜ、武田家は、このような文書を出したのか、その理由を考えてみましょう。

金山衆に武田家が様々な特権を与えて、金の探掘量を伸ばそうとした。 など。

金山については、身延町にある「甲斐黄金村・湯之奥金山博物館」に行くと、さらに詳しいことがわかります。



観覧日： 年 月 日 学校 年 氏名：

山梨の林業

次の年表について、展示を参考にして、()に適する語句を入れましょう。

1674	甲府の町人後藤与右衛門他が、奈良田山・新倉山(早川町)における材木伐採を出願
1700	江戸の三河屋太郎兵衛他が、福士(南部町)で()御用及び()御用の材木を調達
1724	棚上山(早川町)御林(幕府の直轄地)で伐採した材木を身延山久遠寺に売却
1743	川村新兵衛他が()及び()の御用のため、奈良子山(大月市)で材木を調達
1774	九一色郷14か村が()修復のため材木を奉納
1786	江戸の材木方善兵衛が秋山村(上野原市)で材木1500本を伐採
1807	奈良子村(大月市)で伐採した川クルミの木を()の箸として使用するため、御用箸屋加藤九左衛門に売却
1829	木賊(塩山市)他の村々が、材木25,000本余を江戸の()藩国産会所に売却
1838	松本(長野県)の木屋が、焼失した()西之丸の御用桧板を大崩村で調達
1838	九一色郷14か村が()西之丸再建用の材木献上を出願
1843	江戸の材木問屋栖原屋角兵衛が御嶽山(甲府市)で()藩御用のため材木を調達
1844	栖原屋角兵衛が、朝日曾雌村(都留市)で材木を伐採し、江戸の深川まで運送

早川町にある「早川歴史民俗資料館」には、山で使用された道具が、豊富に展示されています。



江戸時代、材木 6500本を売却して得た金は、現在の金額ではどれくらいに相当するのでしょうか？ ヒントはいかだのケース(壁の裏側から見てね)

上記の年表から、あなたは、どのようなことを感じましたか。

観覧日： 年 月 日 学校 年 氏名：

山梨の林業

次の年表について、展示を参考にして、()に適する語句を入れましょう。

1674	甲府の町人後藤与右衛門他が、奈良田山・新倉山(早川町)における材木伐採を出願
1700	江戸の三河屋太郎兵衛他が、福士(南部町)で(駿府城)御用及び(奈良大仏)御用の材木を調達
1724	棚上山(早川町)御林(幕府の直轄地)で伐採した材木を身延山久遠寺に売却
1743	川村新兵衛他が(江戸両国橋)及び(日光東照宮)の御用のため、奈良子山(大月市)で材木を調達
1774	九一色郷14か村が(久能山東照宮)修復のため材木を奉納
1786	江戸の材木方善兵衛が秋山村(上野原市)で材木1500本を伐採
1807	奈良子村(大月市)で伐採した川クルミの木を(将軍)の箸として使用するため、御用箸屋加藤九左衛門に売却
1829	木賊(塩山市)他の村々が、材木25,000本余を江戸の(水戸)藩国産会所に売却
1838	松本(長野県)の木屋が、焼失した(江戸城)西之丸の御用桧板を大崩村で調達
1838	九一色郷14か村が(江戸城)西之丸再建用の材木献上を出願
1843	江戸の材木問屋栖原屋角兵衛が御嶽山(甲府市)で(紀州)藩御用のため材木を調達
1844	栖原屋角兵衛が、朝日首雌村(都留市)で材木を伐採し、江戸の深川まで運送

早川町にある「早川歴史民俗資料館」には、山で使用された道具が、豊富に展示されています。



江戸時代、材木 6500本を売却して得た金は、現在の金額ではどれくらいに相当するのでしょうか？ ヒントはいかだのケース(壁の裏側から見てね)

上記の年表から、あなたは、どのようなことを感じましたか。

山梨の材木が、日本国内のいろいろなところで使われていることがわかった。など。